

予算特別枠の創設と広報誌（愛媛県砥部町）

取組概要

まちの財政状況を多く住民に知って貰う。①予算特別枠創設、②広報誌による公会計特集連載

人口 21,533人

担当 企画財政課

取組の効果

予算特別枠創設により、職員には中長期的な視点でのコスト意識が醸成された。また、広報誌による公会計連載では、多くの住民が公会計について情報を知る機会をつくることができた。



創意・工夫した点

予算特別枠創設では、中長期的なコスト削減に繋がる取り組みに積極的に予算を配分した。広報誌による公会計連載では、とにかく分かりやすく見て貰えるよう配慮した。

他団体へのアドバイス

すぐに効果は見えないかもしれないが、財政状況が悪化する前からできるだけ多くの情報を伝えていくことは、とても大事なことでないかと考える。

〈公会計の予算編成への活用/愛媛県砥部町〉

【取組】

- ・平成28年度予算編成において、公会計を活用した「予算要求特別枠」を設定。
- ・中長期的なコスト減につながる事業（照明器具のLED化、高耐久性部材の導入等）については、通常の予算要求枠とは別枠での予算要求が可能。
- ・各部署は施設別の行政コスト計算書の財務書類を審査資料として財政課に提出（中長期的なコスト減の立証）。

年間コスト削減（イメージ）

	初期費用	減価償却費
通常の照明器具	300万円	→ 150万円
LED照明器具	1,000万円	→ 400万円

【効果】

- ・「予算要求特別枠」を創設することにより、財務書類を予算編成に積極的に活用するという意識の醸成が図られた。
- ・公会計による財務書類で中長期的なコスト（減価償却費等）を「見える化」して予算編成に活用することで取られた財源を賢く使うことを促進。